

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和2年7月4日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900530		
法人名	有限会社 イツキケアサービス		
事業所名	ぐるーぷはうす なごみ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府富田林市東板持町3-15-5		
自己評価作成日	令和2年2月15日	評価結果市町村受理日	令和2年7月20日

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php</a>
---------------------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499-1
訪問調査日	令和2年6月9日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさを大切に」を理念に、普通の家での暮らしに近づけるよう、ゆったりとした生活を心がけています。自発的・主体性を持って送れるよう見守り、支えあいながらお世話させていただきます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「ぐるーぷはうすなごみ」は和風民家を改装しており、利用定員が6名の小規模でアットホームな雰囲気大切にしている。少人数であるが故、利用者一人ひとりにきめ細やかな支援を行うことができる。  
事業所理念を基に、職員は利用者一人ひとりの心身等の状況に応じて、利用者のできることを支え、個別の支援を行い理念の実践に繋げている。利用者は職員と共に天候の良い時はできる限り散歩に出かけ、季節を感じたり閉じこもりの防止や下肢筋力の維持向上ができるように努めている。季節の花を観賞に出かけたり、日帰り旅行をする等、積極的に外出ができるように取り組んでいる。食事については、食材に応じて職員が献立を決め、家庭的な料理を提供しており、利用者から要望があれば柔軟に変更することができる。利用者と職員は近隣住民と日頃から積極的に関わりを持っており、毎年行う地域の防災訓練や夏祭りにも参加している。  
平成14年度から看取り介護を行っており、24時間対応が可能な協力医と連携を図り、何人もの看取り介護を行った実績がある。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を玄関に掲げ、利用者様一人ひとりの目標に沿い安心して暮らしている環境作りをしています。	事業所理念は「その人らしさを大切にし、自発的・主体性をもち支え合う」であり、玄関とダイニングに掲示し、毎月のヘルパー会議で理念が実践できているかを話し合っている。職員は利用者一人ひとりのできることを理解し、個別の支援に努め、その人らしさを大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園の草ひきやふれあい喫茶への参加や回覧板を利用者様と回したりして地域の一員として交流をしています。	利用者は職員と一緒に散歩している時等に近隣住民と挨拶を交わしたり、近隣住民宅へ立ち寄ることもある。また、事業所で作った赤飯を近隣住民に配る等、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事のお祭りや公園清掃にも利用者様と参加し地域の方にも支援の方法等を理解してもらうように努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催をしている。	2カ月毎に運営推進会議を開催し、法人代表、管理者、地域包括支援センター担当者、民生児童委員、利用者、利用者家族が参加し、意見交換を行っている。事業所の活動報告や地域や事業所の行事について情報交換している。会議で出た意見等はヘルパー会議で話し合い、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	利用者様の諸申請や書類の提出。また、疑問点の相談等協力してもらっています。	2カ月毎に開催しているグループホーム交流会に市の担当者も参加しており、困難事例や制度に関する疑問等、積極的に意見交換を行っている。その他、電話での相談や空き室情報の提供、市役所へ出向いた際には必ず担当者と挨拶を交わすように心がけている。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>施設内外研修で学び、身体拘束のない介護を学んでいる。また、なごみにおいては身体拘束は行っていません。但し、利用者様に危険を及ぼす場合のみ家族様の承認を得た上で行う場合がある。</p>	<p>内部研修を毎年行っており、職員が外部研修へ参加できるように配慮している。外部研修の内容等は報告書を作成し、伝達研修をしている。利用者と日頃の接し方で不適切な言動等があった場合は職員間で注意している。玄関等は夜間以外は解錠している。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設外研修で学び、虐待のない介護を学んでいる。また、なごみにおいては虐待は全てにおいて行っていません。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>施設外研修で権利擁護に関する制度を学び、実践に活用できる様にしています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用の際、専門用語は使わずゆっくりと話をし、理解・納得を得られるようにしています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>広報なごみだよりでの問いかけやご家族の来所時に聞き取りをする他、アンケートを実施しています。</p>	<p>利用者の意見や要望は日頃の関わりの中で聴き取っており、家族からの意見等は電話やメール、来所時に確認している。また、毎年、無記名でアンケートを実施し意見や要望が出易いように工夫している。聴き取った意見や要望等は職員間で話し合いサービスの向上に反映している。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>常に直接話を聞いたり、また、月1回の会議では全スタッフの意見を聞き反映させています。</p>	<p>管理者は日頃から職員と関わりを持ち、常々意見や要望を聴き取っている。業務の効率化や行事、家具の配置、利用者に関わる支援の方法等、様々な意見や要望を取り入れ、職員一人ひとりが積極性を持って仕事ができるように配慮している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は必要に応じて随時全スタッフとの個別面談を行い聞き取りをし、ストレス等の軽減を図っています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎年、各自最低1回は研修し、また毎月1回を目標に施設内研修を行いスキルアップを図っています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市の施設会に加入や介護相談員の受け入れをしています。また、管理者は3ヶ月に1回をめぐりに同業者と交流をしています。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人やご家族も含め、傾聴し聞き取りながら信頼関係の構築に努めています。</p>		

16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人やご家族も含め、傾聴し聞き取りながら信頼関係の構築に努めています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>インテークやアセスメントを十分に行いニーズを理解するように努めています。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の出来る事を職員と共にを行い共同生活を実感していただけるよう努めています。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>生活状況を報告する等、連絡を密にし、行事に参加していただくなど、誠心誠意をもって対応しています。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけのお店に行くなどして関係が途切れないよう努めています。</p>	<p>利用者一人ひとりの生活習慣を把握し、馴染みの美容室や図書館へ出かけている。また、家族と一緒に外泊や墓参りができるように送迎する等、馴染みの場所との関係性が継続できるように支援している。近隣住民とも新たな馴染みの関係となれるように日頃の付き合いを大切にしている。</p>	

21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフがお手伝いして利用者が共同で作業が出来るように努めています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お話を聞き相談させてもらっています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて信頼関係の構築を図り、思い・希望等の聞き取りに努めています。	職員は日頃から利用者と関わる時間を多く持ち、様々な思いや要望を聞き取っている。意思疎通が難しくなった利用者には、行動や表情の他、身体に触れながら目を見て感じ取るように努め、家族からも意向を聞き取っている。聞き取った思い等はヘルパー会議で話し合ったり、家族に伝えることもある。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ご本人、ご家族、関係者との信頼関係を築き、情報収集の把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	【ご様子】 【出来る事】 【出来ない事】 【特変】 等、関心を持ち、お一人様毎のケア記録へ詳細に記入しスタッフ間の情報の共有を図っています。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族が来所された時や電話連絡の際、スタッフと話し合い、その人に合ったケアプラン作成をしています。</p>	<p>介護計画書は家族の意見や職員及び看護師からの情報を基に原案を作成している。その後、計画書の原案を家族と話し合った上で介護計画書を作成している。3～4ヶ月毎にモニタリングを実施し、心身の状況等に変化があれば随時、見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者毎に細かく記録し情報の共有を心がけケアプランの見直しにも活かしています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>年間行事以外でも外出するなど利用者様の生活にメリハリをつけています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の人達との交流の場ふれあい喫茶や町内会行事の参加。また、回覧板を回していただくなど地域資源を活用しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>毎週：歯科医、ドクター、看護師の往診。必要な時は他医療機関への紹介状も出してもらっています。</p>	<p>協力医療機関の内科医師が毎週事業所に往診しており、その利便性からすべての利用者がその医師をかかりつけ医としている。内科以外の受診は基本的に家族が付き添うが、都合が悪い場合は職員が同行している。受診結果は業務日誌に必ず記録し全職員が確認し周知している。また、職員が同行した場合については、その都度家族に電話にて受診結果を伝えている。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師に利用者毎に記録してもらい、状態の変化のあるときにはいつでも連絡し相談しています。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>ご家族様・医療関係各位への情報の共有し、必要時に出向いています。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>事業所作成の看取り指針に基づき、重度化前に話し合いの場を設けています。また、スタッフとはマニュアルを作成し、チームケアに取り組んでいます。</p>	<p>入居時には重度化や終末期を迎えた際の事業所における指針の提示をしている。終末期を迎えた際には、医師、ケアマネジャー、家族、管理者で話し合い、家族の同意を得て、家族に寄り添った支援になるように努めている。職員は事業所にて作成しているマニュアルによって支援をしている。平成14年度から看取り介護を実施、実績もある。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>必要に応じて看護師主催の勉強会を実施。また、緊急連絡先も目につく場所に提示している。今後は定期的に勉強会を催していきたい。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難通路の確保・避難誘導介助・連絡・初期消火など年2回の昼夜訓練を行い、地域の防災訓練にも職員及び利用者に参加しています。</p>	<p>事業所が実施している年に2回の避難訓練の他に町会が毎年主催している100名規模の防災訓練にも利用者、職員共に参加している。また、不定期ではあるが、職員は消防署が開催している研修や講習にも参加している。備蓄は食料、水1日分を用意している。町会の防災意識が高く、地域の防災倉庫には十分な食料及び防災用品の準備があり、災害の際は使用できるようになっている。</p>	<p>事業所の備蓄が1日分であり、3日分程度を事業所内で確保することが望ましい。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>“ご本人が出来る事は自分でしてもらい、自分で出来ない事をスタッフが介助する”の考えを実践します。</p>	<p>新任研修で人権・プライバシー保護に関する研修が行われている。また、年間研修計画の中に人権に関する研修が含まれており職員は研修を受けている。管理者は日々職員の言葉使いや振る舞いに気を配り、気づきがあれば注意を促している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>信頼関係を構築し、話しやすい環境を作って、自己決定していただける雰囲気を作っています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ゆったりとしたペースでご本人と関わり、“その人らしさを大切に”を大事にしていきたいです。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>翌日着る服を選んでもらったり、髭剃りや身だしなみを重視するよう努めています。定期的に散髪もして頂いています。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理・片付け等出来る事をスタッフと一緒にしています。</p>	<p>食材は同法人の他の部門の職員が購入し事業所に届けている。その日の調理担当職員が在庫の中から、利用者の希望も考慮し献立を決めている。利用者は配膳やテーブルを拭く等できる事を手伝っている。また、月に1度は外食に出かけ、花見、ひな祭り等の行事食も季節感を感じられるように取り入れている。行事食の際はアルコールの提供も行っている。</p>	

41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>偏った食事やメニューにならないように努め、味付けの工夫をしています。病院の栄養指導も参加しています。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行い、義歯は週2回薬剤で清潔を保持し、毎月2回歯科医にて口腔ケアもしています。</p>		
43	16 <p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>決まった時間だけでなく、ご本人の排泄パターンに合わせて誘導するよう努めています。</p>	<p>利用者の多くは排泄については自立しており、ごく一部の利用者が夜間帯に念の為にリハビリパンツを使用している程度である。排泄の自立に力を入れて支援しており、夜間にポータブルトイレを利用していた利用者に対しても声掛けによりトイレで排泄が可能になった事もある。排泄チェック表にて管理し健康管理に努めている。</p>	
44	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘傾向にある方には、食事内容を考慮し、水分補給を勧め、軽運動も行えるよう支援していきます。</p>		
45	17 <p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本的には入浴日を決めているが、入浴順番は決めていない。その日の体調に応じて入浴して頂いている。</p>	<p>入浴は火曜、木曜、土曜の午前10時からと基本決まっているが、その日の利用者の体調や気分を考慮し柔軟な対応をしている。個浴で湯は一人ひとり入れ替えている。時節に応じたゆず湯等も取り入れている。利用者に同意の上異性介助の時もある。</p>	

46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その時間に応じて、活気・表情などを見極めて休んでいただくようにしています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬表を整理し、スタッフ全員がいつでも確認できるようにしています。毎月1回薬剤師が来所し、利用者の体調の変化を報告し、薬の相談にのってもらっています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>単調な日々にならないように生活にメリハリをつけるように努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天気の良い日は、散歩や外気浴をしていただき、図書館やスーパーコンビニに行ったり、なじみの利用店にも行けるようにしています。</p>	<p>多くの利用者が1日2回、朝、夕に天気の悪い日以外は必ず近くの公園に散歩に出かけている。図書館を定期的に利用する利用者もあり、できる限り事業所に閉じこもらないように支援している。年に1度は他府県までの遠足も計画し実施している。同法人内に福祉車両があるため車いすでの外出も行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>買い物や、利用店に行った際、ご本人にもお金を渡して支払いをしていただき、お釣りも直接もらえるように努めています。</p>		

51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>スタッフからご家族への報告の際、ご本人と電話していただけるよう努力しています。個別に携帯電話を所持されている方もおられます。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関に季節の花やリビングには、雛人形等を置き、季節感を取り入れ、また、清掃や消毒も踏まえ清潔保持にも努めています。</p>	<p>利用者がほぼ1日を過ごす共用の居間にはひな人形や紫陽花の飾りものを置き、季節感が感じられるようにしている。また、壁には職員と一緒に作った作品を飾っている。テレビを観たり、他者との会話を楽しんだり、カラオケをしたり、自由にゆったりとした時間が過ごせるよう支援している。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>決まった場所ではなく、いつでもどこでも自由にしていだけるような雰囲気作りに努めています。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は常に清潔と整理整頓を心がけ、ご本人が使用していたなじみの物を置くようにしています。</p>	<p>居室は安全面を優先し動線の確保は事業所と家族で話し合っているが、それ以外は家族、利用者で自由にレイアウトしてもらい、馴染みの家具等を持ち込んでいる。仏壇や骨壺を持ち込んでいる利用者もいる。エアコン、カーテン、クローゼットは施設の備え付けとなっている。掃除、布団干しは毎日職員が行っている。ベッドを使わず、畳を置き、その上に布団を敷いている利用者もいる。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>場所の表示をし、出来る限り分かるようにしています。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聞いており信頼関係がで きている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない